

実践事例1 児童一人一人の調査結果をまとめる活動を通じた学習問題づくり【単元の導入】

授業の実際 第3学年 「はたらく人とわたしたちのくらしーわたしたちのAAマーケットについて考えようー」



（第1時／全14時間）

本時の目標


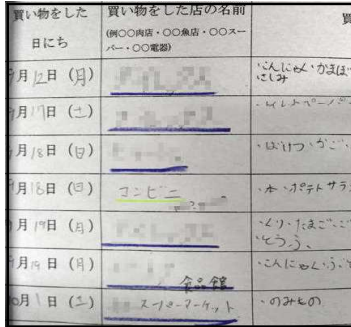
買い物調べの結果を基にして、スーパーマーケットに人が集まる工夫について、予想することができ、学習問題を考えるようにする。（社会的な思考・判断・表現）

本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て(□)
<p>1 これまでの学習を想起する。 〈学級全体〉</p>  <p>町の地図だ。</p> <p>店の写真が貼ってあるよ。</p> <p>お家の人が買い物に行った店がある。</p>	<p>○買い物調べの結果を用意させ、町や近隣の市町にある店を記した白地図を提示することで、課外の買い物調べの結果をまとめる学習への意欲をもたせた。</p>
<p>2 店の種別分けを行う。 〈学級全体〉</p>  <p>ぼくの家は、「○○ストア」に行きました。</p> <p>ここは何色かな？</p> <p>黄色かな。</p> <p>あっ！分かった。青だよ。</p> <p>青は、スーパーマーケットだ。</p> <p>みんなのお家はどこへいったのかな？</p>	<p>[視覚的に情報を読み取りやすくする手立て]</p> <p>○買い物した店を数名の児童に発表させ、児童の生活経験を想起させながら、意図的に店の種類別に色を付けることで、児童が視覚的に店の種類が分かるようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>青：スーパーマーケット 赤：専門店 黄：コンビニエンスストア</p> </div> <p>○児童に、「ここは何色かな」と予想させたり、予想した理由を問い返したりすることで、児童の学習意欲を喚起し、本時のめあてを示した。</p>

本時のめあて 買い物調べの結果をまとめて、大きなめあて（学習問題I）をつくろう。

<p>3 予想を立て、買い物調べの結果を地図にまとめる。 〈個人・グループ・学級全体〉</p> <p>① 最も利用されている店の種類を予想する。</p> <p>② 買い物調べの結果を店の種類別に3色に分ける。</p>  <p>児童の様子</p>  <p>児童が色分けした買い物調べ</p>	<p>[学級全体でまとめる目的を明らかにし、主体的に活動へ向かわせる手立て]</p> <p>○3つの店の種類の中で、どこが最も利用されているのかを予想させ、理由を尋ねたり、根拠を問い返したりしながら児童の思考を揺さぶり、活動への意欲付けを行った。</p> <p>○グループで活動させ、困っている友達がいたら助け合うように指示した。また、思うようにワークシートに色分けすることができないグループには、そのお店で売っている物を尋ねたり、買い物調べの結果を使って一緒に考えたりして支援した。</p>
--	--

③ 黒板の白地図に色分けした結果を色シールで貼る。

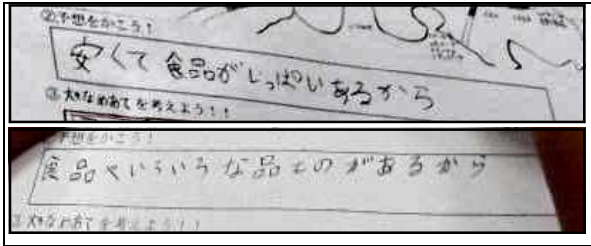


色シールを貼る児童の様子

4 学級の結果となった地図を見て、気づきや予想を出し合う。

① 学級の結果を見て、どの店の種類が多いかを確認する。

② どうしてスーパーマーケットに人が集まっているのかを予想し、ワークシートに記述する。



児童が予想を記述したワークシート

③ 予想を出し合い気づきや疑問を話し合う。

どうしてスーパーマーケットに人が集まるのかな？



5 学習問題 I をつくる。 〈学級全体〉

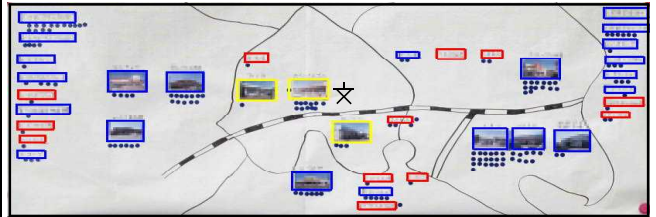
どんな学習問題（大きなめあて）にしましょうか？



人が集まるひみつがあるんじゃないかな？

児童と共につくった学習問題 I 「スーパーマーケットに、なぜたくさんの方が行くのか。そのひみつをさぐる。」

○作業時間を短くするために、あらかじめ調べてきた店の数だけ色シールを用意しておいた。



児童一人一人の買い物調べの結果をまとめた地図 [資料から必要な情報を読み取り、関連付けて考えるようにさせる手立て]

○3つの店の種類のうち、どこが最も利用されているかという活動の目的に立ち戻り、スーパーマーケットにシールが集まっていることから、スーパーマーケットが最も利用されていることを確認した。

○どうしてスーパーマーケットに人が集まっているのかを問いかけ、集まる理由を買い物調べや自分の生活経験を基に予想させた。 【評価】

【努力を要すると判断した児童への支援】

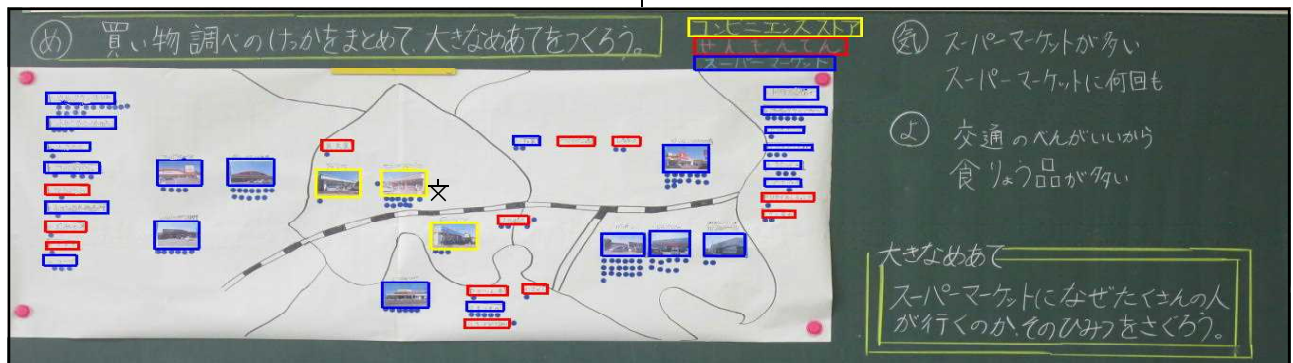
個人の買い物調べの結果から、品物の共通点を考えさせたり、自分の生活経験から何をしにスーパーマーケットへ行ったのかを問いかけることで、予想を記述できるようにした。

○同じ物を買いたい場合に何を大切に選ぶのかなど児童の予想に対して、揺さぶりをかける問いかけをすることで、児童の「なぜ」「どうして」という発言や調べたいというつぶやきを表出させ、学習問題 I づくりにつなげた。

【児童の主体的な学習へと導く手立て】

○学習指導案では、学習問題 I を「スーパーマーケットに人が集まるひみつについて調べよう。」と計画していたが、児童の発言やつぶやきの言葉を使いながら、学習問題 I を児童と共につくすることで、児童が自分たちでつくったという意識をもつようにした。

- 6 今後の学習活動の見通しをもつ。(学級全体) ○児童数人に予想を発表させ、予想を確かめるためにどうするかを問いかけることで、スーパーマーケットの見学や店の人の話を聞いて調べたいという思いを引き出し、児童の思考がつながるように学習計画を伝えた。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 児童一人一人が事前に買い物調べを行い、自分の身近な生活の中から情報を集めてくるようにしたことや、どの種類の店に最も行っているかどうかを調べるために、白地図に情報をまとめさせたことは、児童が目的をもって複数の情報を関連付けて考えるようにする手立てとして有効でした。また、学習意欲を高める効果も確認できました。
- 学習活動ごとに、児童に予想させる問いかけを行い、児童の予想や結果に対する問い返しを行ったことや、児童から出た疑問や発言の言葉を使って学習問題Ⅰをつくったことは、児童の問題意識を高め、学習問題Ⅰの解決に向けた学習計画を考える主体的な学習を促すことにつながりました。
- 買い物調べの結果を白地図にまとめる際に、板書に大きな白地図を張り、色分けや色シールを使いながらまとめさせたことは、児童が情報を読み取りやすくなり、児童の思考を焦点化することに効果的でした。
- 学習活動4で教師が「どうしてスーパーマーケットに人が集まっているのか」を問いかけ、集まる理由を買い物調べや自分の生活経験を基に予想させることで、本時の評価を行いました。指導計画では、買い物調べを基に予想できたら「おおむね満足」、自己の生活経験を加筆していれば「十分満足」という判断の目安をもっていましたが、児童の多くは生活経験から記述していたため、判定が困難になってしまいました。児童の思考をよく吟味し、評価規準に対する判断の目安を設定する必要があります。